

第 13 回新しい資本主義実現会議 意見書

2022 年 11 月 28 日

株式会社経営共創基盤 (IGPI)

IGPI グループ会長 富山和彦

・DX 革命、さらには GX 革命へと破壊的イノベーションが今後も継続加速する時代状況において、持続的成長の牽引車は躍動するスタートアップエコシステムであり、それを起点とした企業と産業の高い新陳代謝力です。

・その観点から本 5 か年計画は、新しい資本主義の新しい成長戦略の中核計画であり、迅速かつ果敢な実行を期待します。

・停滞の 30 年間に於いて、世界のサッカー界が猛烈にグローバル化、デジタル化する中でも日本のサッカーは飛躍的に進歩したが、その連動的な基本要素は三つ

- ① 地域におけるサッカーの競技人口と応援人口をより広くより深く拡大 (J リーグ 100 年構想)
- ② 国内外のグローバルなトップチームでグローバルに活躍するプロ選手層の厚み作り
- ③ グローバルクラスの代表チームの強化

・これをやはり急速にグローバル化が進むスタートアップの世界に置き換えると

- ① スタートアップに挑む起業家のすそ野を全国へ広く深く拡大
- ② 日本が、グローバルなトップスタートアップ人材とトップベンチャーキャピタル、そして世界中のオープンイノベーション狙いの大企業が入り乱れる場所になることと、世界各地のトップエコシステムで多数の日本人起業家やキャピタリストが活躍していること
- ③ グローバルクラスのメガベンチャー、グローバルクラスのベンチャーキャピタルの登場⇒一昔前の GAF A、最近のビオンテックやモデルナ、VC ならクライナーやホロウイツ、セコイア、インデックスクラスが日本から生まれること

・本 5 か年計画は①については、政策としては必要かつ十分と評価します。

・②③については、まだ残されている課題、世界のトップエコシステムとのレベルプレイングフィールド実現面での課題は相当数あり、引き続きその克服のために官民の取り組みが必要であると考えます。

- ・スタートアップエコシステムが新たな持続的成長のメインエンジンとなっている 5 年後のゴールイメージは、

「世界中のトップスタートアップ人材とトップベンチャーキャピタルが日本の地に集まって様々なグローバルクラスの社会課題解決をビジネス化すべく競い合っている。世界中の大企業も日本にアンテナを張ってオープンイノベーションのチャンスを伺っている。その一方で日本出身の起業家やキャピタリストがシリコンバレー、ボストン、イスラエル、北欧など世界のトップエコシステムで多数活躍している」

- ・裏返して言えば、日本人と日本の資金による、国内市場や日本の大企業との連携頼りの、日本の資本市場だけを出口とすることを目的としたドメスティックなエコシステムにしてはなりません。Jリーグが純血主義を取り、その在籍者優先で代表チームを編成していたら、ドイツに勝つどころか、未だに W 杯本選にさえ出られなかったかもしれません。遠くない将来、スタートアップ空間の W 杯でベスト 8 入りを目指しましょう。